

趣味の園芸

那珂町企画課

鹿志村 洋行



私は、10年前植木市で勧められるまま果樹苗を買ったのがキッカで、家続きにある少しばかりの空地を利用し趣味の園芸(菜園)を楽しんでおります。NHKに、似たようなタイトルの番組があるようですが……。

主に、菜園の作業は週末等の休日だけで済むよう心がけていますが、休日も天候や諸行事などに左右されることが多いことから我が菜園は、比較的手のかからない野菜、山菜、果樹等を主に作っています。

例えば、

- 1) 蔭のとう……真冬に春の兆しを告げてくれる。
- 2) アサツキ……小柄で寒中でも軟らかく薬味に欠かせない。
- 3) 山ウド、タラ、山椒の芽……畑の隅に



植えておくと3月～4月ごろ、まさに春の息吹きが味わえる。

- 4) アスパラ……1度苗を植えつくと3年目ごろから毎年4月に元気な芽が次々と顔を出す。
- 5) いちご……秋に株分けした苗を植えつくと、翌年初夏からおいしい実が沢山とれる。
- 6) ニラ……畑の隅に1度植えつくと、毎年春から初冬まで充分過ぎるほど葉が摘める。
- 7) 梅……梅干し、果実酒になる。
- 8) カリン……春、桃色の花が美しい。実は香り

が良く果実酒になる。

また、健康食品といわれるキウイ、プルーン、アンズ等が植えてある。

このように我が菜園は、主として土まかせ、季節まかせのものが多い。その他にもナス、キュウリ、トマト、白菜等々四季様々のものを作っておりますが収穫の時の嬉しさは、また格別のものがあります。

おわりに、素人でもできるキウイの株の殖やし方を紹介します。

まず、枝は12月下旬から翌年2月中に剪定した2～3年生の元気の良いもの(長さ25cmぐらい)を選び、2～3日ぐらいの間に鉢植えする(鉢は枝に見合う大きさのもので、土は普通の黒土で良い。腐葉土を混ぜればなお良い。)

これを、畑の隅でも日当たりの良い暖かい場所へ枝先10cmぐらい出して土中に埋めます。3～4月ごろには芽が出ますので適当な時期に土中からそっくり取り出し、その後は暖かい所で市販の肥料を少しずつ施肥しながら管理します。1年後鉢から取り出し畑に植えて完了です。

ただ、これは私の体験だけのことで科学的な根拠は何もありませんので、念のため申し添えておきます。それにつけても、文章にして表現するということの何と難しいこと。

経 済 動 向

国内の動き

●製造業設備投資13%増

日本長期信用銀行は24日、63年度の設備投資計画調査を発表した。全産業の計画額(工事ベース)は15兆1902億円で、前年度比6.9%増と62年度の5.2%増を上回る伸びになった。このうち製造業は13.0%増と3年ぶりにプラスに転じるうえ、56年度(13.0%増)以来の高い伸びを記録した。

製造業では個人消費など内需の盛り上がりにより、増産投資が急拡大するうえ、研究開発投資が順調に伸びる。長銀は、民間設備投資は製造業を中心に拡大し、景気のリード役になる、とみている。(日経 3月25日付)

●サラリーマン貯蓄平均819万円

総務庁が22日発表した62年の貯蓄動向調査速報(調査時点12月31日)によると、サラリーマン(勤労者)世帯の平均貯蓄残高は819万円で、前年比11.8%増えた。

株暴落にもかかわらず株価が傾向として上昇し財テクブームが続いたことが反映している。また、自由業者、法人経営者の貯蓄の伸びはサラリーマンよりさらに高かった。(日経 3月23日付)

貯蓄残高の2ケタ増は56年(16.4%増)以来6年ぶり。貯蓄の中身では、特に株式と投資信託の伸びが高く、10月の

●都道府県の63年度予算、8.6%増

自治省は31日、全国47都道府県の63年度普通会計当初予算の規模をまとめた。

増と53年度(前年度同期比43.4%増)以来の伸びとなるなど内需拡大に力点を置いた予算となっている。北海道、福岡県など13自治体では62年度当初予算では骨格または暫定予算を組んだため、63年度の伸び率は6月補正後との比較によった。(日経 4月1日付)

総額は34兆6986億7400万円で、前年度当初予算に比べた伸び率は8.6%と昭和51年以降では54年度の13.8%に次ぐ高い伸び。歳入では地方税が前年度当初比18.1%と2ケタ増。歳出では普通建設事業のうち地方単独事業費が33.6%

県内の動き

●研究所立地、最高の12件で全国一

茨城県がまとめた62年の県内企業立地動向によると、工場立地件数は102件、敷地面積は159haだった。いずれも前年実績を若干下回ったものの、件数で全国6位、面積で同3位と上位クラスに入った。研究所の立地は12件で、前年の10件を上回り過去最高となった。これは①科学万博開催で「科学技術集積県」というイメージが定着した②常磐自動車道、東関東自動車道などの整備が進んだ③広大な平たん

地が残っている首都圏の中では地価が安いなどによるものとみられる。

業種別立地状況では金属、電気、プラスチックが各14件と最も多く、化学(12件)、窯業・土石(9件)がこれに次ぐ。工業団地では竜ヶ崎市の「つくばの里」、つくば市の「つくばテクノパーク豊里」など「つくば」を冠した団地への立地が目立った。(日経 3月31日付)

●情報サービス産業、人材確保が課題

茨城県中小企業振興公社の中小企業情報センターは県内の情報サービス産業の実態調査の結果を初めてまとめた。それによると、情報サービス企業は水戸、日立、勝田、土浦、つくばの5市に集中、全体の83%を占めていることがわかった。いずれも日立製作所を中心とする大手メーカー、東海、大洗、那珂地区の原子力施設、それに筑波研究学園

都市の国立研究機関という三大ユーザーの近くに位置している。

また、各企業とも経営上の問題点として経験者熟練者の確保や従業員数の確保を挙げ、新しい市場として大企業よりも中小企業の開拓に取り組もうとしているところが目立つ。(日経 4月1日付)